

1P79

養護教諭に求められる能力グループでの話し合いにおける語りの分析

山本 真実¹、日比 薫²、大城戸 香織³¹浜松医科大学医学部看護学科²垂井町立宮代小学校³岐阜市立長森中学校

【背景・目的】

社会の在り方や学校環境が急激に変化する時代となり、子どもが抱える健康生活上の課題も複雑化している。こうした中、教員の資質・能力の向上とキャリアシステムの構築が推進され、養護教諭にも多様な能力が求められるようになった。しかし養護教諭の能力に関する先行研究は非常に少ない。本研究の目的は、養護教諭に求められる能力がどのようなものであるかを明らかにすることである。

【方法】

研究参加者は、実践経験10年以上であり、研究参加に同意した養護教諭とした。研究参加者と研究者で構成する5・6名のグループにおいて、これまでの活動で大切にしてきた能力、養護教諭に必要なと感じる能力、近年特に必要だと感じる能力などを話し合い、話し合いの語りをデータとして収集した。話し合いにおいて語られた能力は、第一著者が、その場で付箋に記入し、文脈と付箋同士の関係により模造紙に配置した。話し合いは、ICレコーダーに録音して逐語録を作成し、話し合いの後、逐語録を読み返して付箋を追加した。配置した付箋のまとまりには、付箋の意味を表すタイトルをつけて「サブカテゴリー」とし、それらの「サブカテゴリー」から「カテゴリー」を生成した。本研究は倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

話し合いは4グループで実施され、その語りから3カテゴリー、13サブカテゴリーが生成された。【チームを機能させ子どもの育ちを支えるための能力】は、[対話と臨機応変さで狭間を埋める力] [専門的な知識・技術を伝える力] [養護教諭としての見方を他者に伝える力] [今いる場所で自分の役割を見つける力] [活動を評価する力] [問題・課題を他者と語り合う力] から構成された。【子どもの主体的な育ちを支えるための能力】は、[子どもを可変的に理解する力] [「一生」という視点で考える力] [生きる術を伝える力] [子どもの健康意識を引き出す力] [養護教諭として子どものことを語る力] から構成された。【自己研鑽を続けるための能力】は、[自身の考え方を更新していく力] [自身の実践を内省する力] [モデルを描くこと] から構成された。

【考察】

全てのカテゴリーには、他者と話し合いながら対応する柔軟性と、新たな考え方を見出す創造性が、サブカテゴリーとして含まれた。柔軟性や創造性は、急速に変化する時代において、養護教諭が活動を行うために重要な能力であることが示唆された。

1P80

食物アレルギーのある中学生の体格と食事に関する検討

谷川 涼子¹、古川 照美¹、倉内 静香¹、清水 亮¹、戸沼 由紀²¹青森県立保健大学²弘前医療福祉大学

【目的】

近年、食物アレルギー(FA)に関する情報も多くなり、社会全体の認知度も高まってきている。FAの治療は、かつては除去食を完全に除去していたが、現在は食物除去をするにしても、QOLの向上を目指して必要最小限の除去が標準となっている。そのため、中学生の食事状況や体格がFAの有無や医師の診断の有無により違いがあるのかを把握することが必要である。本研究では中学生を対象にFAの生徒の体格や食事状況について検討し、FAの生徒の生活指導に示唆を得ることを目的とした。

【方法】

2019年4月～5月に青森県内の3つの自治体において、中学1年生から3年生の生徒を対象に調査を実施した。体格指標として身長を計測し、タニタ体組成計MC-190を用い、体重、体脂肪率、筋肉量を測定した。食事状況については簡易型自記式食事歴法質問票:BDHQ15yを用い、過去1ヶ月の栄養素等摂取量を調査した。対象者をFAで医師の診断を受けている生徒、診断を受けていないがFAありの生徒、FAなしの生徒の3群に分けた。3群間の栄養素等摂取状況および体組成の比較は一元配置分散分析を行い、有意差があった項目は多重比較を行った。なお本研究は研究倫理委員会の承認を受けて実施しており、対象者には口頭及び文書で説明し書面による同意を得た。

【結果】

426名の中でFAがあり医師の診断を受けている生徒は11名(2.6%)、診断を受けていないがFAありの生徒は17名(4.0%)であった。栄養素等摂取量について、FAで医師の診断ありとなしの間で有意差がみられたものは、マグネシウム、亜鉛、銅、ビタミンCであった。医師の診断を受けていないFAありとFAなしでは、ナトリウムで有意差がみられた。体格指標は3群間で有意差はみられなかった。

【結論】

FAの有無や医師の診断の有無による体格に違いは認められなかったが、医師の診断を受けていないがFAありの生徒はミネラルやビタミンの摂取に少ない項目があった。しかし、それらは成長期にある生徒にとって必要な栄養素であると思われる。医師の診断を受けていない生徒は耐性を獲得しているが、それに気づかず本人や保護者がFAであると思いついで食事の制限をしている可能性が考えられる。そのため、医師の診断を受けていないFAの生徒に対して適切な診断、治療のための支援が必要であると思われる。